

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000213		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家桂(2)		
所在地	京都府京都市西京区桂稲荷山町12-2		
自己評価作成日	令和4年7月1日	評価結果市町村受理日	令和4年9月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2694000213-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	令和4年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外出、面会の規制がありなかなか楽しめていないのが現状です。が、毎日何かしらのレクリエーションをし楽しみを見出しています。ゆっくりと入居者様と関わる時間が増えたと思います。笑顔、の絶えない施設、そして職員と一緒に大笑いし、毎日たのしい時間を提供しています。入居者様のほとんどが、朝起きてから寝るまで、フロアでお過ごしになっています。入居者様一人ひとりのケアの提供を心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

阪急桂駅から徒歩10分の住宅街に位置する当事業所は、母体法人の9つの経営理念のうち、特に6項目目の「現場第一主義」を色濃く反映し、黄色い三つの円のニコニコマークをシンボルとしています。事業所理念を「Sun Smile」と定め、入居者・職員の笑顔を引き出すことを大切にしています。コロナ禍により地域活動や外出には多くの制限がありますが、人込みを避けての花見や、事業所内運動会等の行事を充実させ、食事には、「自分が食べておいしくないものは絶対お出ししない」という姿勢で、手作りにこだわっています。クリスマスや誕生日ケーキも職員の手作りで、入居者とともに飾りつけ、作る楽しみを共有しています。職員研修には、各種WEB研修を活用し、理解度チェックののち、場合により管理者面談をおこない、職員の気づきやスキルアップを促しています。また、看取り体制も充実し、このところ2名の方を看取り、1名の方の在宅復帰を支援して、ご自宅での看取りを実現させる等、入居者の意向に沿った支援をされています。入居者をじっと座らせ放しにしない主義の当ホームの優しい心遣いが、入居者の柔和な表情や、楽し気な行事写真から垣間見えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を職員で考え作成し各フロアに掲示している	「入居者さんに笑っていてほしい、職員も笑って仕事がしたい」という思いのもとで事業所理念「Sun Sun Smile」を定め、職員間で毎年検討・更新している。ケア21のビジョンとともに玄関やリビングに貼り、実践に活かしている。入居者や職員に笑顔がなくなると、管理者は理由を聞き、対策を講じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会して地域の情報を知る。	コロナ禍により、以前の様に活発な交流はないが、日頃の挨拶、町内会の回覧板回し、一部ボランティアの再開等により細々と続いている。地域の方からは、「住民への談話室の開放はまだか」との声が寄せられている。地元の高校の植物クリエイトの取組に賛同し、花苗等を購入し、事業所で育てている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため施設内会議である。地域包括の方に意見頂戴している。	最近では書面開催で、事業所職員のみで実施し、外部からの参加はない。議事録には、入居者の状況、コロナワクチン接種状況、行事、事故・ヒヤリハット事例等を記載し、地域包括支援センターから寄せられた意見を載せ、家族に配布し、行政には持参あるいは郵送している。	コロナ禍の間に、外部からの参加メンバーが交替されている事もあり得ますので、事業所の取り組みを知ってもらうために、地域住民の代表者や有識者、民生委員の方等へのアプローチが必要と思います。対面での再開時に、スムーズな会議運営になるように、書面開催であっても、外部の委員への挨拶や議事録持参等の試みをされては如何でしょう。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば連絡し相談にのってもらっている。	新型コロナ陽性者の発生時には、市や保健所とのやり取りが頻繁にあり、指導を受け、PCR検査の検体持参等もおこなった。また、日常的に介護保険報酬算定の問い合わせや、事故報告などで行政と関わっている。地域包括支援センター主催の、地域の医療・保健・消防・介護等多職種の集まる会合に1度参加したが、他のWEB会議には参加できていない。	

京都府 グループホーム たのしい家桂(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回高齢者身体拘束研修を実施。法人内のホーム長会議で他施設の身体拘束の事例発表、検討会等を隔月で実施し施設内会議で共有している。	運営推進会議に合わせ、身体拘束委員会を2か月に1回開催し、全職員が年2回、WEB研修を受けている。理解度テストをおこない、そこでのチェック内容や習得度により、管理者面談をおこなっている。毎月の施設会議(全職員参加)で個々の具体例を挙げて検証している。出ていきながらの方の理由を探り、1階の小規模多機能型居宅介護事業所に配偶者や知人がいる方は、そこにお連れしたり、1階から上って来てもらったりして、本人の思いを尊重して支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回高齢者虐待研修を実施。法人内のホーム長会議で他施設の虐待の事例発表、検討会等を隔月で実施し施設内会議で共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて活用、案内している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時に説明を行い契約時にも十分に説明を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等で直接ご意見を伺ったり法人主幹のお客様満足度アンケートを年1回実施している。	法人が年1回行うアンケート結果に、「面会が出来ないので、本人の様子が分からない」、「食事がまずい」等の意見があり、条件付き面会や、リモート面会の機会を増やしたり、「自分が食べておいしくないものは提供しない」という職員間の意思統一を図り、手作りの食事やおやつにこだわっている。着慣れた服が汚れても手放せない方がおられ、一緒にクリーニングに出しに行き、捨てるのではない事を本人に納得してもらう等、本人の意向に沿った支援をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内会議を月1回実施、法人主幹で従業員満足度アンケートにより職員の意見や提案を運営に反映させている。業務改善提案書(社長直通)仕組みもある。	法人の職員向けアンケートや、会議以外にも、普段の聞き取り等から意見を収集し、良い案はすぐ実行に移すようにしている。口腔ケア用のワゴンを購入したり、夏祭りのうちわ作りの企画などを実現させている。職員の提案はよく聞いてもらえ、ワークライフバランスへの配慮もしてもらえて、休暇や休憩も取り易いと職員ヒアリングでも聞き取った。	

京都府 グループホーム たのしい家桂(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の誰伸び人事制度、キャリア段位制度、自己申告シートがある。ほめカードを活用し互いを褒め合う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア段位制度により一人ひとりのケアの課題や目標を共有し、法人内の研修や外部研修、資格取得研修のフォローを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各ホーム長会議、計画作成担当者会議、ユニットリーダー会議を実施し情報共有の場を作っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの情報を職員間で共有し安心して頂けるようなコミュニケーションをとるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時に現在の状況確認し困っている事や不安を傾聴し出来るだけ敏速に対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状に対しどのようなサービスが適しているかご本人・ご家族さまと話し合い妥当なサービスをうけれことが出来るよう努めている。入居前に小規模の利用を勧める事あり。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り、掃除、洗濯等の役割をもって頂き、共同作業で行い共に支え合う関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の参加頂くカンファレンスを実施し、本人様意向や希望をうかがうだけでなく介護に参加していただけるよう勧めている。		

京都府 グループホーム たのしい家桂(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会禁止となったがオンライン面会が可能となり、馴染みの関係が途切れないようにしている。	談話室での面会の再開やオンライン面会を支援し、体力の低下した知人に代わり、その娘さんの面会なども受けている。将棋・編み物等の趣味の支援・歌や体操などのWEB視聴やカラオケ等、1階の小規模多機能型居宅介護事業所とも交流しながら、生活の活性化を図っている。訪問美容により、染髪等してもらう方もあり、装う心を大切にしている。洗濯物畳みや掃除等、家事を得意とする方の、個々の持ち味や習慣を活かす支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで過ごされる方が多く入居者様同士で会話あり。時々言い合いになる事あるが職員間に入っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な場合は連絡や相談の支援をおこなっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の意向や希望の把握に努めている。家族様と話し合いながら困難な点についてあっても表情しづさ等観察出来る限り本人本位の支援となるよう検討している。	アセスメント表とケアチェック表で本人の心身状態を把握し、介護計画1表や2表に本人の思いと、それを実現するための支援体制を詳細に記載している。パズル・歌の好きな方やタオル畳みの好きな方は介護計画にあげて、プランとして実現させるようにしている。上手く気持ちを伝えられない方も、様子観察や家族からの情報収集等により思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを活用したりコミュニケーションを図ったりしながら生活歴、馴染みの暮らしの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・管理日誌・看護記録を通して現状の把握に努めている。カンファレンスでも共有している。		

京都府 グループホーム たのしい家桂(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族様の意向を聞き把握している。カンファレンスにて話し合い、情報を共有し介護計画に反映している。	本人や家族、訪問診療の医師・訪問看護師・薬剤師・介護職等専門職の意見や援助方針を反映させて介護計画を作成している。通常、モニタリングは半年ごとにおこない、変化がなければ、介護計画は1年で更新するが、その間に認定期間が満了したり、変化があればサービス担当者会議を開催し、随時計画を更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報交換し介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携での訪問介護、訪問歯科、訪問理美容、福祉用具、法人内の他事業所の活用、ボランティアを活用し柔軟な支援に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームドクターが月2回の往診、24時間の音コール対応		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医を選択されている方がいる。	入居後も家族と以前の主治医に通っておられる方、事業所の協力医療機関の医師に主治医を変更され、月2回の訪問診療と24時間サポートを受けておられる方、入居前からの医師の月1回の訪問診療を受けておられる方等があり、訪問看護師とも連携している。定期的に、歯科医や歯科衛生士の治療や口腔ケアを受けている方もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週1回、入居者様の体調不良時には必要に応じて適切な医療機関への連携・施設内での対応アドバイスを行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現状の把握、情報交換をし退院に向けての支援を行う。		

京都府 グループホーム たのしい家桂(2)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の指針を説明させていただき本人、家族様の意向をもとに看取り介護を行っている。	「重度化対応・終末期ケア対応に関する指針」を整備し、入居時に「急変時・終末期における医療等の意向確認」をしている。職員研修や「ありがとう 大切な人を送るために」の冊子を職員に配り、看取りへの対応力を高めている。看取り期は医療・介護関係者や家族が度々カンファレンスをおこない、看取り計画を立てて支援をしている。このところ2件の看取りがあり、他の1件はご家族の希望により、自宅に戻り、逝去された。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応や初期の対応については会議やカンファレンスなどで定期的に全職員に説明し実践出来るように指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成し年2回以上の消防訓練を実施している。消防署員の方に来てもらい実施訓練を行っている。	消防署の立ち合いのもとで、昼夜想定、消防訓練を各々1回実施し、昼間想定、訓練では、入居者も非常階段横に避難している。他に消防署OBによる、AEDも含めた救急救命講習を実施している。水害への対策は、3階への垂直避難と決めている。備蓄は本社から送られる3日分の食料・水等を3階倉庫に蓄えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりを尊重し丁寧語対応を心がけている。	接遇・プライバシーのWEB研修を受け、その中のチェックシートで自己の振り返りをし、報告書を提出している。日常的には、呼び名はさん付け、トイレ介助の際もドアは原則閉める。入室時のノック、希望者には入浴時等に同性介助をおこなうようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の要望や希望を取り入れ自己決定が難しい方は選択できるように配慮している。日常のケアの中で思いをくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様とのコミュニケーションを通じて出来る限りご要望に沿って日々の暮らしを楽しむくずごしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや服装等入居者様に声掛けし一緒に考えるようにしている。訪問理美容でカット、カラー、パーマ等本人様のしたい髪型をおこなってもらう。		

京都府 グループホーム たのしい家桂(2)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に好みの食べ物、飲み物をうかがい出来る限り提供している。食事準備、片付けなど入居者様の能力に応じて職員と共に行う	食事は業者の献立と食材を使い、職員が手作りをし、入居者にゴボウのさがき等、できることを手伝ってもらっている。月1回程度は、お好み焼き、手作り餃子等の自由献立の日を作り、入居者とともに、調理や、片付けや洗い物をしている。おやつ作りも盛んで、ホットケーキ、どら焼き、おはぎ、ぜんざい等を作り、水無月は他事業所から手製のものを頂いたりしている。刻み食やブレンダー食にも対応している。正月やひな祭りにはおせちやちらし寿司、時には赤飯も炊き、誕生日ケーキは手作りで、同じ月に数人誕生日の方が重なっても、誕生日ごとに、個別に祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録に残し入居者様の状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否の方もいるがほとんどの方が口腔ケアを行っている。訪問歯科医に相談し問題有る方の口腔ケアの助言をもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し声掛けし出来るだけといれでの排泄を支援している。	トイレ誘導時に排泄できていない時は、次は早めに声をする等、個々に合わせた丁寧な支援をしている。日中は看取りの方以外は、トイレでの排泄を基本としている。車椅子使用で、二人介助を要する方もおられる。細やかな観察により、紙パンツから布パンツになった方もおられ、パットの大きさや介助方法が妥当かどうか、フローア会議で話し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況把握し出来る限り薬にたよらないようヨーグルトミルクやバナナジュース等提供している。		

京都府 グループホーム たのしい家桂(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低限度の入浴回数を設定している。希望に応じて回数増やしたりしている。	湯は毎回入れ替え、午前中に3人位のペースで、一人週2回は入浴できるようにしている。重度の方はシャワー浴で対応し、拒否の強い方は職員を変えたり、別の階をご利用の配偶者の方に声を掛けてもらう等いろいろ試みている。柚子湯や入浴剤は肌の弱い方もおられ、使用していないが、好みのシャンプー使用の方はおられる。1対1で、職員との会話をゆっくり楽しむ機会としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に配慮している。消灯、起床時間を設けず、個人に任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬に関して理解している。症状の変化について共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状況に応じて気分転換や出来る事への支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でなかなか実行できていない	外出機会はコロナ禍前と比べ激減しているが、駐車場にテーブルを出して茶話会をしたり、少人数であり人のいない、穴場的な公園での花見や車中からの紅葉狩りドライブを楽しむ事もある。外気浴を兼ねて、1階玄関脇のプランターに花を植え、水遣りをしている。コロナ感染者の減った折は、職員と1対1でコンビニエンスストアに行き、おやつ等を買うこともあった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持っている方がいる。買い物に行きたいと要望あれば職員付き添い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様が電話をかけてきてくださるので電話にでてもらい話をしている		

京都府 グループホーム たのしい家桂(2)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配色、電飾などを配慮している。	メダカを飼い、花を育てている。リビングフロアーには、東と北両面の窓から光が射し、遮光カーテンで明るさを調節している。白い清潔感のある対面キッチンに並ぶ手作りおやつのかき氷、食欲をそそる。壁には紫陽花、風車、鯉のぼり等の貼り絵作品や行事の写真を飾り、テーブルを囲んで、向日葵の貼り絵創作や写真整理に勤しむ方もある。時間帯により、歌や体操、トランプ、パズルなどを楽しむ光景も見られ、重度の方以外はリビングのソファやテーブルで寛ぎ、時には口論もあるが、それぞれが仲間との生活を楽しんでいる。換気・除菌モップでの清掃・消毒を定期的におこない、空気清浄機を配置して、清潔を心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のスペースを持てるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、馴染みのあるものを持参してもらい居室でくつろげる時間が過ごせるようにしている。	入口の表札は、花の絵に名前を書き、プラスチックのカバーを付けている。部屋には、クローゼット、ベッド、エアコン、スライドレールフック等が備わり、布団や使い慣れた鏡台やテーブル、仏壇、テレビ、アルバム、ぬいぐるみ等を持参し、写真を飾り、居心地のよいレイアウトにしている。家のタンスは大きいので買い替えたという方もいる。掃除の出来る方は職員と一緒にこない、換気は職員がしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	簡単に色々なものが使用できるよう配慮している		